謹賀新年

可児市長
冨田 成輝

新春にあたり、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

昨年は、可児市が誇る「美濃桃山陶の聖地」に関して、多くの話題が提供されました。国宝志野茶碗「卯花墻（うのはながき）」が生まれた「牟田洞（むたぼら）古窯跡」の調査。それに呼応して、東京日本橋の三井記念美術館で開催され、大好評を博した桃山の名陶展。聖地の象徴的施設「荒川豊蔵資料館」の再オープン。更には、その歴史を受け継ぐ人間国宝・加藤孝造さんの名誉市民推挙など、可児市が全国に広く認知された年でした。また、美濃金山城跡が国史跡に指定され、アーラが全国トップレベルの劇場・音楽堂として、文化庁の特別支援施設に選ばれるなど、特に歴史・文化・芸術の分野で高い評価を得た一年でした。

今年は更に、本市の誇り、歴史・文化・芸術・自然が織り成す魅力を、市民の皆様と力を合わせて発信してまいりたいと思いますので、ご支援とご協力をお願い申し上げます。

可児市議会議長
川上 文浩

年頭にあたり、市民皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

市議会では『市民皆さんとの信頼関係をつくり、その信頼に応える議会』を目指しています。そのために議員と議会の活動ルールである議会基本条例に則り、市民の皆さんが関わりやすい議会となるよう、そしてより多くの情報をお届けできるよう取り組んでいます。

具体的な取り組みとして、議会だよりやホームページの見直しを行うと共に、議会フェイスブックを始めました。

また、市長が行う事業の監視と評価、そして政策立案を行い、活力ある議会運営となるよう心がけています。

昨年も議会報告会を行い、皆さんとお話できる機会を作ってまいりましたが、まだ十分とは言えません。今年はより多くのご意見をお聞きする方法を考えたいと思います。

本年も議会活動にご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

陶芸家 加藤孝造氏
可児市名誉市民に

顕彰式の様子

【主な受章歴等】

昭和60年
日本陶磁協会賞受賞

平成７年
岐阜県指定重要無形文化財技術保持者「志野・瀬戸黒」に認定

平成22年
国指定重要無形文化財技術保持者「瀬戸黒」（人間国宝）に認定

平成24年
旭日小綬章受章

9月3日(火)の市議会定例会において、陶芸家で人間国宝の加藤孝造氏を名誉市民として推挙することが全会一致で可決されました。

11月28日(木)には花フェスタ記念公園で名誉市民顕彰式が挙行され、あわせて受章記念祝賀会が開催されました。また、祝賀会終了後に、加藤氏や可児陶芸協会会員が制作した抹茶茶碗を使って記念茶会が開催されました。

なお、可児市名誉市民は昭和57年の初代市長林桂氏、同60年の陶芸家荒川豊蔵氏に次いで3人目となります。

加藤孝造氏は土岐郡瑞浪町、現在の瑞浪市に生まれ、青年期までを過ごしました。

昭和29年に日展の洋画の部において、全国最年少で入選するなど、絵画にも非凡な才能を発揮しましたが、ほどなく進路を陶芸に固めました。

その後多治見市に移り住み、昭和45年に県陶磁器試験場を退職、陶芸家としての創作活動に入りました。

昭和46年に荒川豊蔵氏に師事、同氏の助言を得て、同年、久々利平柴の地に窯を築いて以来、40年以上にわたり、作陶活動の場を可児市に置いてきました。

加藤氏は美濃桃山陶の伝統を忠実に受け継ぎながらも、独自の芸術性をもって瀬戸黒、志野、黄瀬戸の作陶に取り組んできました。

その作品は「孝造黒（こうぞうくろ）」「孝造志野（こうぞうしの）」と呼ばれ、平成22年には国指定重要無形文化財技術保持者「瀬戸黒」、いわゆる人間国宝に認定されています。

また、平成11年、若手陶芸家育成のため、私財を投じて、平柴の陶房脇に「風塾（かぜじゅく）」を創設。平成23年には可児陶芸協会の設立に際して顧問に就任するなど、伝統技術の継承、後進の育成にも尽力され、美濃桃山陶の振興発展に多大な貢献をいただいています。

11月29日(金)、加藤孝造氏から、市に対して志野焼の抹茶茶碗の寄贈および図書カード10万円分の寄附がありました。

抹茶茶碗は、陶芸の専門誌の表紙を飾り、特集記事でも取り上げられた作品で、図書カードは、名誉市民受章記念祝賀会において、記念品として祝賀会実行委員会から加藤氏に贈呈されたものを、可児市の子どもたちのために役立ててほしいとの思いから、同氏が市内小中学校図書充実のために寄附されたものです。

問合先 秘書課